

令和3年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立板橋有徳高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 事務局の構成 副校長＝教務主任
- (3) 内部委員の構成
副校長、主任教諭(教務担当)、教諭(生活指導担当)、主任教諭（進路指導担当）、経営企画室長 計5名
- (4) 協議委員の構成
PTA会長、PTA副会長、近隣自治会長（2町会2名）、高島平警察署員 計5名

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
第1回 令和3年7月9日(金) 午後2時から午後3時で本校校長室にて開催
出席者 近隣地域町会役員1名、高島平警察署員1名、校長・本校内部委員6名 計8名
校長あいさつ、各委員の自己紹介
協議委員委嘱、評価委員の委嘱
学校運営連絡協議会趣旨説明、学校経営計画・報告について
本校の教育活動、生徒の現状報告、各分掌及び経営企画室の経営方針について
「有徳だより」(今年度のこれまでの発行分11～12号)
第2回 令和3年11月 書面開催(コロナ感染症予防のため)
学校の現状について(教育活動、生徒の現状報告、各分掌の中間状況について)
学校評価アンケートの実施について
教育活動に対する学校評価の内容について
「有徳だより」(今年度のこれまでの発行分13～14号)
第3回 令和4年3月 書面開催(コロナ感染症予防のため)
学校評価アンケート結果について
本校の教育活動、成果と課題の報告について
「有徳だより」(15号)
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
第1回 令和3年7月9日(金) 開催
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
第2回 令和3年11月 書面開催(コロナ感染症予防のため) (電話連絡)
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
第3回 令和4年3月 書面開催(コロナ感染症予防のため) (電話連絡)
今年度の学校評価の結果、協議委員の評価、次年度の実施時期の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・12月 全校生徒 対象：63人 回収：54人 回収率：85.7%
 - ・12月 保護者全員 対象：63人 回収：42人 回収率：66.7%
 - ・1月 地域・住民 対象：20人 回収：10人 回収率：50%
 - ・12月 教職員 対象：9人 回収：9人 回収率：100%
- (3) 主な評価項目
 - ・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、ライフワークバランス
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
学校に対する満足度（無回答を除く全体数からの割合）
 - ・生徒用アンケート Q20：板橋有徳高等学校に入学してよかった。
 - ・保護者用アンケート Q20：保護者として板橋有徳高等学校に入学させてよかった。
 - ・地域用アンケート Q10：板橋有徳高等学校定時制課程への入学を薦めることができる。以上の3問の肯定的な回答A及びBの割合で満足度とすることとしている。
集計結果（無回答を除く全体数からの割合）（A：はい、そう思う。B：どちらかといえばそう思う。）
 - ・生徒用アンケート Q20：88.6パーセント（昨年 92.3パーセント）
 - ・保護者用アンケート Q20：95.2パーセント（昨年 100パーセント）

・地域用アンケート Q10： 80.0 パーセント (昨年 66.7 パーセント)

(5) 評価結果の分析・考察 (校長や学校全般への意見・提言)

- ・生徒用アンケートにおいて、学校に対する満足度が昨年に比べて、やや(約4%)下降した。これは今年度も本校におけるコロナ感染症対策の影響が出ているのではないかと考えられる。本校生徒は、小・中学校において不登校を経験した生徒や一度入学した高校から進路変更して入学してくる生徒も多い。定時制課程の特色である少人数多展開授業・習熟度別クラス編成授業が生徒のニーズに合致し、教員側も小規模校の利点を生かし、生徒一人一人の個性に応じたきめ細かな指導に努めている。このため、下降の数値は、短縮授業の影響ではなく、行事の縮小実施や修学旅行の中止等の結果が、学校に対する満足度に反映したと考察できる。
- ・夜間定時制ということもあって地域との交流不足は否めないが、今年度も地域との交流を継続して計画していた。しかし、今年度はコロナ感染症対策のため、12月の志村消防団と連携した防火・防災パトロールの実施のみとなってしまった。昨年度と比べ1回でもできたことは良いことであったが、今回地域用アンケートの自由意見の中に「生徒を見かけることがない」というものがあった。このようなことを改善するためにも、青少年健全育成徳丸地区委員会と連携した夜間パトロールの参加や、学校周辺の清掃活動も行うことを、今後の様子を見ながら、再開を含めた計画を立案する必要がある。
- ・これまでの課題であった本校の教育活動の情報発信では、2年前より始まった「有徳だより」で本校生徒への配布(保護者への発信)、対外的には学校ホームページに掲載、地域の町会に配布と今年度も合計5回の発信を行った。これも本校をより良く理解してもらうための方策となったと考えられる。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題 (学校の自己評価へ反映)

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・本校の安心・安全な学習環境や問題行動の少なさが本校の教育活動を支える根幹であり、今後も全教職員が一丸になって、安心・安全な学習環境を維持し、生徒を多面的・多角的に理解し自己肯定感を高めさせるとともに、保護者・地域に信頼され「所属していることが誇れる学校」づくりに全力で取り組むことが今後も重要である。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・引き続き、本校の教育活動の情報発信を行う。
- ・次年度こそ近隣の町会と学校のより連携した活動、防災訓練等が地域と連携して行われると良い。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項 (学校経営計画へ反映)

(1) 学校運営

- ・生徒・保護者・地域に対して、機会あるたびに学校の教育活動を説明し理解・協力を得る。
- ・知 徳 体をバランスよく伸ばし、社会に貢献できる生徒を育てる。

(2) 学習指導

- ・小規模学校の少人数指導の特色を最大限に生かし、個に応じたきめ細かい指導を行なう。

(3) 特別活動

- ・部活動の漫画研究会や演劇部の文化祭発表やスポーツ同好会とテニス部の大会参加等を奨励する。

(4) 生活指導

- ・登校時に教員が生徒を玄関で迎え、挨拶を行うなどコミュニケーションを図り、普段からの励ましの声かけは継続して行なう。

(5) 進路指導

- ・ハローワーク等の関連機関と連携・協力体制を確立し、卒業生の進路決定率90%を目指す。

(6) 健康・安全

- ・セーフティ教室(年間3回)や薬物乱用防止教室(年1回)を実施し、命の大切や相手を思いやる心の育成に努める等、心身共に健康な生徒の育成を図った。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数5人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数5人中1名無回答(第3回のアンケート結果において)

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
3	0	0	0	0	1	1

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

今年度、協議委員の職員会議及び企画調整会議への参加はなし。

8 その他

- ・今年度も学校運営連絡協議会はコロナ感染症予防のため、3回のうち2回は書面開催になった。例年、式典等では、来賓として御出席していただける地域の方々もあり、信頼の証となっていたが、今年度はそれもかなわなかった。しかし、今後も教職員が一丸となり、より良い教育活動に取り組んでいく。